善教寺
ZENKYO-JI

寺報

2016年（平成28年）
No. 243

2月号

Zenkyo-ji monthly
Communications Paper
En ［えん］

縁

御伝鈔（その12）

親鸞聖人のひ孫である覚如上人が、親鸞没後３３年に親鸞聖人の御遺徳を讃えた『報恩講私記』を著わされました。続いてその翌年、親鸞聖人の伝記絵『親鸞伝絵』を著わされ、詞書（ことばがき）の部分だけを『御伝鈔』（上巻・八段、下巻・七段）といいます。

第四軸・第四図　「洛陽遷化」

親鸞聖人の御往生と御葬送の情景が描かれています。

向かって右下の右側は善法院でご病気中の親鸞聖人、右上は親鸞聖人の御往生の様子。

左半分は親鸞聖人の御遺骸を輿（こし）に納め、延仁寺の荼毘所に送ろうとしているところが描かれています。

＊善法院は、親鸞聖人の実弟、尋有（じんう）僧都のお寺です。

第四軸・第五図　「洛陽遷化」

親鸞聖人の御遺骸を延仁寺で荼毘している情景が描かれています。

住職レター

穏やかな天気の正月でしたが、一月も半ばを過ぎた頃、急激に寒くなってきました。

さて以前、この寺報に書きましたが、祖母の昔話に一番多かったのは、『勝如上人ご巡教』についての話です。昭和三十二年三月三十一日のこと。本願寺の門主が、地方へご巡教に出られ、その途中に立ち寄られるという、非常に名誉な事だったようです。祖母が当時を懐かしんで、嬉しそうに話をしてくれていました。

しかし残念な事に、当時の写真が残っておりません。おそらくどこか本堂の裏にでも保管されているのでしょうが、代替わりしたこともあり、探せずにおりました。

するとこの度、ご門徒の菅近朝枝様が、「住職さん、うちにあったよ。これをコピーして置いておきんさい！」と言って、貴重な写真を数枚、貸して下さいました。

この集合写真は、本堂正面、山門の下です。正面中央にお座りの方が、勝如上人（本願寺門主）。前列左、袈裟・衣姿で立っているのが、私の祖父（廣幡龍雲）です。

皆さんが知っている方も、多くいらっしゃることでしょう。

発行日：2016年1月25日（毎月25日発行）発行所：浄土真宗本願寺派　善教寺

〒739-0036 東広島市西条田口500-4
TEL(082)425-1357 FAX(082)425-1248